

特集 表彰学生プロジェクト  
～第9回(2022年)理学部同窓会賞 受賞者にインタビュー～

数学科 大友拓人さん

南4号館 理学部同窓会室にて

2021年7月25日

インタビューアー 真船貴代子、神山和士



—まず現在の状況を教えてください。

学習院の大学院に進学して、自然科学研究科数学専攻の1年目です。

また非常勤で、学習院の男子中等科の教員もやっています。

中学1年生の担当です。

—1年生ですか。数学が好きになるか嫌いになるかの分かれ目ぐらいの所ですね。

まだ簡単どころなので、楽しそうにやっています。多分2年生ぐらいからみんな悩みだすと思うんですけど。

—代数ですか？幾何？

幾何です。

—卒業時のご研究を詳しく教えてください。

3次元の点(X,Y,Z)の、3つの成分の比が同じものは同じ点として扱うような空間の中で、いろいろな曲線を考えるのですが、ちょっと変わった点をもつ曲線があります。その点を普通の点に持っていくという作業を、いろいろなことを考えながらやっていました。

—それは、お1人で研究なさったのですか、それともグループですか。

基本的に僕1人で、高木先生と研究していました。

研究対象の本があるんですけど、週1回先生とそれを読み合いながら進めていました。



—家で勉強なかって、ゼミに来て先生と話し合うのですか。

そうです、基本的には家で勉強していました。

僕が4年生の時がコロナ禍の真っ最中の時期で、結構ストレスがたまりやすかったのです。

けれど、他に授業とか取っていなかったのも、たまにランニングに行ったりしてリフレッシュしながらゼミに集中していました。

—ご研究の時のやりがいとご苦労も伺っているのですが。

数学科では大学の3・4年からだんだん内容がハードなものになってきます。大学院ではそれをさらに長い時間をかけて学んでいきます。少しの内容しか理解できないんですけど、その少し理解出来たっていうことをポジティブに捉えられるのが数学のやりがいかなと思います。

—ご苦労もたくさんあると思うのですが。

そうですね。大学3年4年さらに大学院になってくると、いろんなところから情報を集めないとなれません。僕があまりやっていなかったことをまた復習して、それを学んでからまたメインの研究に戻るという作業を繰り返すので、そこはなかなか大変です。

—今、数学を教えていらっしゃるって伺ったので、将来的には、先生ですか？

はい、教員になりたいと今も教えています。それで中学で数学を教えに行っていて、高校では週2ぐらいでサッカー部の部活動を見えています。将来的にもそのサッカー部の部活も見たいなという夢はあります。

—サッカー好きだったのですか。

サッカーが好きです。

—体も動かし頭を動かすってところですか。

自分でプレーをするのもそうですし、Jリーグの試合を観に行くことも好きです。



—大学生活を伺っていますが、大変充実した大学生活でしたか。

そうですね、大学時代は充実していました。

コーチとして高校の部活に行くのをメインとしながら、大学ではサッカーサークルに入ったり、一つ上の理学部同窓会賞を受賞した工藤先輩が所属していた陶芸サークルにも入っています。

—そうですか。陶芸サークルにも入っていらしたのですね。学祭では何か物を作って売っていたと伺っていました。

ただ僕の代になってコロナ禍になってしまったので、自分たちでたくさん作って売ってという作業が出来なかったのは悔いが残りますね。

—作品は結構作ったのですか。

本来なら夏休みにたくさん作るんですけど、少しずつ作りながらという段階で、コロナ禍で寸断されてしまったので、そこはちょっと悔いが残るところではあったんですけど、まあ仕方ないですね。

—それは残念でしたね。

—サッカーは小さい時からされていたのですか。

中学生から始めました。

私は中等科出身なんですけれど、周りには小学校、幼稚園からやっている子が多い中で、サッカーが楽しくて始めました。公園とかでサッカーやっていて、そういうのが楽しくて部活でやりたいなと思って、あの素晴らしい人工芝でやりたいなと思ったのです。

—我々の時はそんな人工芝は無かったなあ。

—素晴らしい人工芝になっているのですね。恵まれた環境！

はい、そうです。それはありがたいことだと思っています。

—そして後輩の指導も出来ていて、いいですね。

なかなかよい結果が出ていませんが、部員は一生懸命頑張っています。

—中高のサッカー部は、部員は何人ぐらいいるのですか。

高校は、3学年で40人ぐらいなので、そんなに多くはないですね。

—いつ頃から数学が好きだなって思われたのですか。

中学校3年生の時ですね。数学の先生は、今思うと中学生的にはなかなかハードな内容だったと思うんですけど、その中で先生が言ったことを理解出来て面白いなと思ったのが数学科に進みたいと思ったきっかけです。

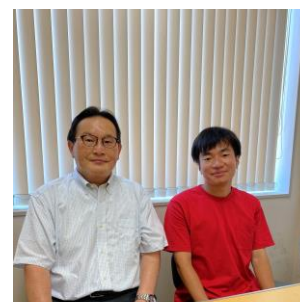
—物理とか化学じゃなくて数学？

そうですね、やっぱり数学です。

その先生の繋がりもあって中学校で教えています。

—何先生ですか。

近澤先生です。



—私も中等科からなんですよ。今は良い芝のグラウンドがあるのですね、私の時は土でした。広がったですけどね。ただ今と校舎は違うようですね。

場所が変わりました。今グラウンドがある所に校舎が建っていて、グラウンドは手前になって、前と逆転しちゃったんですよ。

—そうですか。我々のときにサッカーの凄い先生いたんです、鈴木勇作先生知ってます？

知っています。先生の教えとして勇作五訓というものがあり、今でも受け継いでいます。

—その先生に教えてもらったんですよ。その頃は体育の先生はすごく充実して、バスケットでは従野先生、サッカーでは鈴木勇作先生、もう一人大御所の名越先生がいました。

—運動にも恵まれ、将来を見据える数学にも出会って、充実した生活ですね。

そうですね。本当に学習院中・高等科に感謝しています。

—就職も学習院を希望しているのですか？

学習院も含めてですが、いずれ私立高校の教員になりたいと思っています。

—そして数学好きをたくさん育てて下さい。

なかなか好き嫌いが分かれてしまうので、少しでも面白いところを伝えていきたいですね。  
—とにかく数学嫌いにならないように学生さんを育てていただけると嬉しいなと思います。

—教職は取りましたか。

取りました。免許は4年の時に取り終わっているのですが、今は教員の教職課程の授業で忙しいことはないですね。

—数学のどういうところが一番好きな所ですか。

時間をかけて、いろんなことを学び直した後に、その新しいことを理解出来ることが僕の数学の好きなところですよ。

大学ぐらいのレベルになってくると抽象論が多くて、そういうときに具体例を考えて理解できるっていうのがいいですね。具体例というのが大事なポイントだと思うので、それを考えてちゃんと理解出来るのが、数学の好きなところですよ。

—大学になるとかなり専門的な事に踏み込むじゃないですか、我々が高校までやってきた数学と全然違う。それが例えばどういうふうに生かされるか良く分からないところですが、そこはまだ僕もあまりよくは分かっていないんですね。

中高のときは計算がメインだったのが、大学になると理論や証明とかが多くなって、そこでつまづくのが周りにはいました。僕も少しつまづいたんですけど。

—数学科は今1学年何人ですか。

僕の代は65人でした。

—すごい、65人ですか、多いですね。

—男女比はどんな感じですか。

男女比はやっぱり男子の方が多いので、7:3か8:2くらいかな。男子の方が多いです。

化学科と生命学科は女子が多くて、物理と数学は少ない感じです。

—今日はありがとうございました。物理・化学・数学・生命と表彰された学生さんのインタビューをしてきて、今日が最後のインタビューですけども、それぞれ皆様が本当にしっかりしていて、未来は明るいなって思いました。4人にそれぞれいろいろお話を伺っていつも思うのですが、若い人たちはこんなに充実した大学生活をして、社会に出ていくんだなと思うとすごく頼もしいなと思いました。

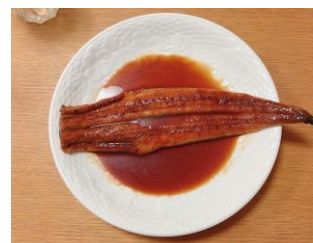
—毎年毎年良い学生さんたちに出会えて、とても良いお話を伺うので、あなたたちを見ていると将来は大丈夫かなって思います。

—そう言って頂けると嬉しいです。

—最後に、何か好きな食べ物はありますか

食べ物は、鰻とか好きです。

—良いですね、鰻。私も好きです。土用の丑の日に



鰻食べましたか？

食べました！

—鰻は関西と関東と違いますけど、どっちでも好き？

関東です。関西はあんまり食べたことないので。

—お酒はどうですか。

あんまり飲めないんですけど、そこはちょっと強くなりたいなと思っています。

—ご両親は飲まれないんですか。

両親は結構飲んでいまして、僕の親とちゃんと飲めればなと思うんですけど、そのレベルにはまだ行ってないかな。

—まあ、これからね。だんだん飲んでいると飲めるようになりますよ。

—甘いものはどうですか。

ティラミスとか好きです。

—洋菓子系ですね。

そうですね、フィナンシェとかも好きです。

—サッカーなさると、体力勝負なのでたくさん召し上がるのではないかと思いますけど。

あんまり食べちゃうと太っちゃうので自制をしながらですね。

—偉い！まだ若いから食べても太らないんじゃないかと思いますよ。

—楽しいお話をありがとうございました！

最後にこのインタビューの写真を撮りたいので、お願いします。

